

家族と自然に親しんで

樋口みな子

私の生まれ故郷は沙流郡平取町の山奥です。父の転勤で道内を転々となりましたが、どこも自然が豊かで、森や川で遊ぶことは生活の一部分だった思い出があります。最近観た映画「萌の朱雀」(二十七歳の女性監督がカンヌ国際映画祭でカメラドール賞を受け話題に)は過疎化が進む山村

に暮らすある家族の十五年間を描いていましたが、卓袱台を囲んでの皆の食事、縁側の向こうに家族を見守るかのような、こんもりとした緑の森が美しく、なんだか懐かしい気持ちがありました。

結婚前まで暮らした旭川で、大雪と石狩の自然を守る会と出会いました。ビルディングの谷間で神経をすりへらして暮らした東京から自然豊かな北海道へ帰ってきたのに、各地で過疎からの脱却、地域振興の名の下に、大規模な自然破壊が進められていました。自然は守らねば失うのだと、自然保護運動に力を尽した十年でした。山とは無縁だった私が仲間を支えられて、大雪山系の山々にずい分登りました。頂上に立つ達成感も格別ですが、初めて出会う高山植物に心洗われ、励まされ登れたように思います。

子どもが生まれてからも何とか山登りを続けたくて、夫が息子を背負い子に乘せて、空沼岳に登った事がきっかけになり、家族で年三回位は山登りをしています。息子が八歳の時初めて夕張岳に登りました。大人でもきつい山だし、大丈夫かなと心配しましたが、無事、頂上に立つことが出来、彼にとっては大きな自信になりました。以来毎年のようにユウパニコザクラの会が主催する夕

張岳学習登山に参加しています。

家族で登ったさまざまな山、岩手県の早池峰山、トムラウシ、無意根、アポイ岳、恵庭岳等ありますが、七年三月、春休みに行ったニュージールランドで、マウント・クックのトレッキングが出来たことは感激でした。季節はもう初秋で、肌寒いのですが、日本人以外の人たちは皆、短パンスタイルなのには驚きでした。スケールの大きなサガンアルプス山脈に心洗われ、氷河のきざんだ巨大なU字峽に息をのみました。氷河は大一小三六〇もあるそうです。一億五千万年前は海底にあったのです。その後の造山運動で雄大なサガンアルプスが出来たことを知り、改めて自然のいとなみに感動しました。

マウント・クックの周囲七万ヘクタールは国立公園に指定され、自然保護が徹底されています。日本の行政の自然保護のレベルのおそまつさとは対照的でした。ニュージーランドは北海道によく似た、自然が豊かな国ですが、原発のないクリーンな国でもあります。質素だけど、花に囲まれ心豊かに暮らす人々、それに比べ、物にあふれ、何が大事なことなのか見失っている日本の人々、でもどっちが豊かといえるのだろうかと考えさせられた旅でした。

自然保護の運動に関わって二十年

になりますが、独身の頃のようには動けません。仕事も家事もありの中で自分なりに発信できることはないだろうかと初めたのが「銀河通信」です。家族で行った山や森を伝えることを中心に、心に残った本や映画を紹介しています。毎月発行（最近は一・五カ月、二カ月に一度）で九年、八七号になりました。読者は全国に百人を越えています。

六月には自然保護協会の主催で、自然観察指導員の講習を受けました。指導員としては力不足ですが、全国各地で行なわれる研修会で学んで、野幌森林公園をフィールドにいつの日か指導員としてデビューしたいと思っています。

